

岡部光明ゼミナール 2011年度秋学期

# 研究論文および卒業論文 の概要



明治学院大学 国際学部

## 岡部光明ゼミナール

### 「2011年度秋学期研究論文および2011年度卒業論文の概要」について

この冊子は、明治学院大学国際学部における「岡部光明ゼミナール」履修者諸君の2011年度秋学期タームペーパー（研究論文）、ならびに2011年度卒業論文につき、その概要部分を取り出して印刷したものです（それらの目次および主要図表も含めて掲載しています）。今回の冊子は当ゼミナール「概要集」として第8号ですが、私が本年度末をもって明治学院大学を定年退職するので、これが最終号となります。ここに収録されたすべてのタームペーパーと卒業論文は、発表検討会（2012年1月14日-15日、湘南国際村で実施）において報告され、そこでの議論を踏まえて改訂されたものです。

皆さんがこの冊子を手にとるとき、自分が大学時代に研究したテーマを思い出すと同時に、私が大学教育についてどのような考え方を持っていたのかも想起してほしい。以下では、それに関連する二つのことがらを記載しておきます。

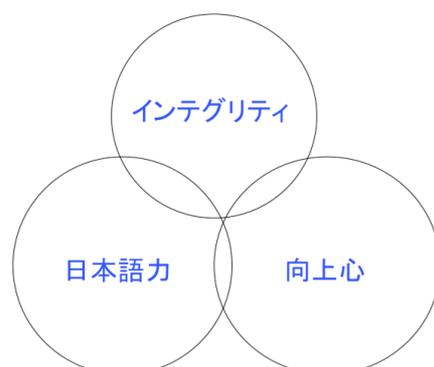
#### 大学教育の三つの目標

まず大学教育の目標は、単に知識の豊富さ、あるいは目先の問題に対してすぐに役立つ技量をいうのではなく「一般性の高い人間としての幅広い力量」であると私は考えていることです。つまり、教わった知識を全部忘れてしまったときにその人に残るもの、それこそが大学教育（あるいはその根幹である教養）でなければならない、というのが私の考えです。

そして、そうした目標は三つの要素からなる、と整理しています（次ページの図を参照）。すなわち日本語力、インテグリティ、向上心、この三つです。

日本語力とは、理解力と伝達力を統合した能力に他なりません。インテグリティは、正直さ、誠実さであり、社会生活を円滑に営む力という側面を持っています。そして向上心とは、自分を常に高めようとする能力です。これら三つのうち、日本語力と向上心は比較的分かり易いものですが、インテグリティという表現は日本では未だ一般化していません。しかし、これは教育が目指すべき三本柱の一つであり、国際性を持つ目標でもあることを強調したい。これらの詳細は拙著『大学生へのメッセージ』（慶應義塾大学出版会）で論じたところですが、以下では、インテグリティに絞ってその意義や必要性の理由などを述べておきます。

## 教養の基本的三要素：教育の目標



インテグリティとは「言うことと行うことが一致していること」です。つまり言行一致であり、両者が一体化しているという意味で完全性を意味しています。われわれは、口では良いことを言っても実際の行動がそうになっていない場合が少なくありませんが、そうではなく両者が一致していること、それがインテグリティです。そして重要なのは、他人が見ていようが見ていまいがその姿勢が貫かれていることです。人が見ている場面では言行が一致していても、人が見ていないところではそうでないケースがありますが、そうではなく人の目が届かないところでも言うことと行うことが一致していること、これがインテグリティの重要な側面です。

これは、社会を構成員する個人にとって最も重要な倫理的基準のひとつであり、それが行き渡っているのが良い社会だと思います。なぜこのようにインテグリティを重視するのでしょうか。第一に、インテグリティを基礎とした行動をしていれば、何も言い訳をする必要がないからです。つまり、他人の目を不必要に気にかけることがなくなるので自主性が高まり、その結果、より良い判断ができるようになるからです。第二に、インテグリティは責任を持って行動することを意味しているので、第三者からの信頼感が高まり、自分にとって喜びになるからです。第三に、インテグリティを生活の基準におけば、込み入った日々の生活を単純化できるというメリットがあり、毎日の生活に自信をもたらしてくれるからです。

さらに、インテグリティは国際性、普遍性のある価値であることも付け加えておきたい。例えば、国際機関の代表的存在である国際連合では三つの基本的価値を掲げていますが、その一つとしてそれがうたわれているのです。すなわち国連における三つの価値とは、専門的能力 (professionalism)、インテグリティ (integrity)、多様性の尊重 (respect for diversity) であり、国連の幹部職員を全世界から公募する場合、この三つを充足する人であることを強調しているのが印象的です。

インテグリティの重要性は、組織についても同様に当てはまります。企業の経営が誠実性

をもってなされていない場合には、近年の多くの事例が示すとおり、企業の命取りになる場合もでてくるわけです。岡部ゼミ卒業生の皆さんは、私がいつも強調していたこのインテグリティということを忘れないでほしい。

### 学生諸君への2種類のメッセージ

第二に、私が皆さんに言っておきたいのは、時間や空間を超えた普遍性のある考え方、あるいは生き方がある、ということです。それは私が長年学生諸君に色々な場面で述べてきたことであり、15項目に整理して「学生へのメッセージ1」として私のウェブページに掲載してあります (<http://www.okabem.com/message/index.html>)。人生に迷ったときなど、折に触れてこれらを読んでほしい。必ずヒントがあるはずです。

それらを一層深いところから説いた私の言葉は「学生へのメッセージ2」として私のウェブページに掲載してあります (<http://www.okabem.com/message2/index.html>)。これは、明治学院大学のチャペルアワーで私が皆さんに伝えた4つのメッセージのライブ録音です。ここでは、私の音声自体に加え、美しいオルガンの音色も聞いていただけるだけでなく、メッセージの進行に合わせて関連する写真が順次繰り出されるようにセットしてあります。ぜひ一度クリックして聞いてみてください。そして、皆さんが生きて行く上で参考にしてほしい。

人には、それぞれ使命があります。皆さんそれぞれに与えられた組織や場所で精一杯努力することがまずその第一歩です。皆さんが岡部ゼミで学んだ色々なことを活かしつつ、各自が今後さらに成長し、そして使命を果たしていかれるよう期待しています。

2012年 1月

明治学院大学 国際学部教授

岡部 光明

<http://www.okabem.com>

# 岡部光明ゼミ 研究報告会・卒業論文発表会

—2012年1月14日-15日、於 湘南国際村—



## 目次

### 第1部 2011年度秋学期タームペーパー

#### 演習3 (4年生)

- ・世界の経済危機からの教訓—国際機関・政府・金融市場の相互関係とそのあり方—  
(石川大起) .....10
- ・欧州経済の現状について—2011年の概況と求められる制度改革— (石川 恵) .....12
- ・日本におけるワーク・ライフ・バランスの現状と課題 (上原 彩) .....14
- ・外国人の日本語学習環境の実態と課題—ベトナム国内における日本語及び日本  
国内における外国人児童の事例から— (小川紀行) .....16
- ・日本の景気と円高 (金子 剛久) .....18
- ・デフレ不況下で成長を遂げているユニクロ (菊池 亮佑) .....20
- ・日本における「子どもの貧困」の現状と母子家庭への自立支援の必要性 (郡司義貴) .....22
- ・日本のTPP参加問題と今後の展望 (島野多佳子) .....24
- ・英米型コーポレートガバナンスの特徴と日本型コーポレートガバナンスの変化  
の現状 (武藤弘祥) .....26

#### 演習1 (2年生)

- ・日本映画産業の現状と課題 (岡本拓也) .....28
- ・原価計算の変化と企業経営 (里村 瞬) .....30
- ・ギリシャの財政赤字と日本経済—両国の財政における類似性と日本の課題—  
(手島悠涼) .....32
- ・日本における少子高齢化—要因、問題、解決策— (百井勇人) .....34

## 第2部 2011年度卒業論文

### 4年生

- ・世界経済危機に関するいくつかの側面と教訓—為替相場制度と金融商品を中心に—  
(石川大起) .....38
  
- ・近年の欧州経済危機について—経済システムの課題および改革の方向—  
(石川 恵) .....42
  
- ・日本型ワーク・ライフ・バランスを求めて—オランダ・ドイツ・フランスの事例  
分析からの示唆—(上原 彩) .....46
  
- ・日本語教育の課題とその対応策について—ベトナム国内と日本国内の外国人児童  
の問題を中心に—(小川紀行) .....50
  
- ・地球温暖化と再生可能エネルギーについての考察—脱原発に向けて—(菊池貴彬) .....54
  
- ・近年のデフレ不況について—マクロ経済およびアパレル業界の視点から—  
(菊池 亮佑) .....58
  
- ・子どもの貧困と実情とその対応策—「貧困母子家庭」を中心に—(郡司義貴) .....62
  
- ・日本の食料問題と今後の展望(島野多佳子) .....66
  
- ・日米コーポレートガバナンス比較研究—経済環境変化に伴う日本型ガバナンス  
の変化—(武藤弘祥) .....70
  
- ・日本のデフレと金融緩和政策—1990年から現在にかけて—(金子 剛久) .....74

\* \* \* \*